

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2023年12月
第55号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部



丹羽住職インタビュー
シリーズ浄土宗／浄土宗開宗850年「お念佛からはじまる幸せ」
実践教室／お布施
七福神めぐりウォーキング（新年開運七草粥の会）ご案内
厄払い節分会法要のご案内

丹羽住職インタビュー



西願寺本堂



勢至丸座像



年末が近づくと話題にする「今年はどうなことがあったか？」振り返ると今年には、2020年から日本中を席卷した新型コロナウイルスが、5月には感染症法で「五類」となり街中に活気が戻ってきた事は嬉しい事の一つに挙げられるのでは？

世界では、終わらない戦争のニュースや大きな自然災害もありました。また、イギリスのチャールズ国王の戴冠式も注目を集める行事でしたね。日本では、東日本大震災から12年が経った今年、原発処理水の海洋放出が始まり改めて復興について考えさせられました。私たちを元気にさせてくれる明るいニュースも多くありました。特に、スポーツでの日本人選手の活躍にワクワクした人も多かったのではないのでしょうか。

身近な事から社会的なニュースまで、皆さんはどのような事が印象に残った一年だったでしょうか。



問 ご住職は今年一年を振り返るとどのように感じた一年だったでしょうか？ 印象的だったことなどはありますか？

住職 そうですね。やはり一時のコロナ禍の状況からだいぶ落ち着きを取り戻して世の中が平常に戻ってきたのを実感する年でした。今年も、各種スポーツも盛り上がりましたよね。私は観る方だけですが応援しながら観るのは楽しいし元気をもらえる気がしますね。

問 西願寺では、コロナ禍でも十三夜のお月見コンサートの開催は続けていらっしゃるようですが…。

住職 はい。感染対策に気を配りながら一度も中止することなく開催することが出来ました。お月見コンサートは東日本大震災の時からチャリティーコンサートとしたので続ける事に意味があると思っています。毎回人選には苦労しているのですが(笑)。



丹羽義昭住職



問 今回はジャズで、昨年はフラメンコでした。お寺との意外な組み合わせも楽しみです。ところで、日常生活が平常に戻ってきたという事で年明け二月の節分ではコロナ禍前まで来ていた力士の方もいらつしやるそうですね。

住職 そうなんです。二月の厄払い節分法要も年明け直ぐにある七福神巡りウォーキングラリー(七草粥の会)も日本らしい季節感のある行事です。どなたでも参加できますので、ぜひ皆さんに気軽に参加して頂きたいと思えます。

問 季節の節目の行事に参加して、清々しい気持ちで2024年も活気あるより良い一年にしたいですね。新年も宜しくお願い致します。



問 浄土宗では「南無阿弥陀仏」、他宗では「南無妙法蓮華経」「南無三寶」といろいろな仏さまや経典の前につけられる南無とは何ですか？



答 「南無」とはサンスクリット語の「ナマス」を音写したものです。帰依、帰命、敬礼などの言葉で訳されています。

心のそこから仏さまや、その信ずるものに帰依すること、つまりは「南無阿弥陀仏」と称えることは、「阿弥陀さまに帰依します」(阿弥陀さまに信頼を寄せ、救い導いていただきたい)との思いを表すことで、浄土宗の法要で称えるお念仏はこの教えに基づいたものなのです。

浄土宗開宗850年

「お念佛からはじまる幸せ」

法然上人
浄土宗
開宗850年
お念佛からはじまる幸せ
令和6年



令和6年は、法然上人が浄土宗を開かれて850年目にあたる年です。浄土宗の総本山・大本山では、「お念佛からはじまる幸せ」をキャッチコピーに、法然上人の改宗の御心にふれ報恩謝徳の慶讃法要が奉修されます。令和6年4月のご正当法要の前年にあたる令和5年10月にはお待ち受け法要がお勤めされました。

「お念佛からはじまる幸せ」とは

私たちにとって幸せとは何でしょうか？ 健康な生活を送ること、大切な人と過ごす時間、何かを手に入れる喜び…。幸せのかたちは人それぞれですね。

浄土宗では、浄土宗開宗850年のキャッチコピーである「お念佛からはじまる幸せ」をこのように伝えていきます。

ただ単に「幸せ」を追求するのではなく、本当の「幸せ」とは何かを考えなおすためのフレーズです。

欲求が満たされることも「幸せ」の一面ですが、欲求が満たされることだけが「幸せ」ではありません。

「仏法僧の三宝」の「明るく、正しく、なかよく」生きる生活の中に、「幸せ」の本質があると考えます。

「お念佛からはじまる幸せ」とは、お念佛を称えることにより、自分自身が生かされていることに気づかされる。そして、お念佛を称えることが阿弥陀さまに見守られ、救われていく安心につながり、お念佛の信仰を深めていくことです。

【浄土宗公式ウェブサイト (<https://850jodo.or.jp/>) より引用】

中国浄土教を完成させた善導太師が著した「観経疏」にある「一心に阿弥陀仏の名をたたえ、念仏を称えれば極楽往生できる」とする専修念仏の思想にたどりつき、承安5（1175）年、京都東山吉水に庵をかまえ立教開宗します。法然上人、43歳の時でした。

それから850年。法然上人のひろめた教えは今もなお脈々と伝えられ続けているのです。

親切の心をあらわす

お布施

お布施と言うと、僧侶に支払う料金のように考えている人もいるのではないのでしょうか。

布施は、労働に対する報酬ではありません。ですから「お経料」などと表書きを書いて渡すものでもないのです。「布施」はサンスクリット語のダーナ(旦那)の訳で与えること、喜捨、施しといった意味があります。

お釈迦さまは実践すべき徳目(六波羅蜜)の第一に布施をあげています。(六波羅蜜) 布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧) がそれです。

布施の種類

布施は、「三施」と呼ばれるに三種類に分けることができます。「法施」 正しい仏法の在り方を広く伝え、精神的な無形の施しをするということ。「財施」 財を施す。つまり、お金や衣食などの物質を必要とする人に与え

ること。「無畏施」 不安や恐れを抱いている者に対して、それを取り除き安心を与えること。

無財の七施

お金や物がなくてもできる布施があります。それを無財の七施といいます。

- ① 眼施 〓 やさしい眼差しで人に接する。
- ② 和顔施 〓 人に笑顔で接し、不快な表情を与えない。
- ③ 言辞施 〓 人にやさしい言葉で接し、悪い言葉を与えない。
- ④ 身施 〓 身体を使って他人や社会のために奉仕する。
- ⑤ 心施 〓 心からの感謝の言葉を述べる。
- ⑥ 床座施 〓 場所や間を譲りあう親切。
- ⑦ 房舎施 〓 訪ねてくる人、求めて来る人があれば、一宿一飯の施しをして苦勞をねぎらう。

このように、

お布施というのはそれぞれまわりまわって功德をお互いに施すという意義をもっているのです。



暮らしの中の
仏教語

「歡喜」 [かんき]

誰でもが耳にしたことのあるベートーヴェン作曲の交響曲第九番・第四楽章で歌われる「歡喜の歌」。日本では年末になると聞こえてくるが多くなるのではないのでしょうか？

さて、この「歡喜」仏教では「かんぎ」と読み、經典では仏の教えや名号を聞き歡喜踊躍(かんぎゆやく)することがよく説かれています。浄土三部經の『無量壽經』には「仏の名号を聞くことを得て歡喜踊躍」とあり『阿彌陀經』には「仏の所説を聞き歡喜信受」と説かれています。歡喜踊躍は、喜びの感情が高まり思わず踊りあがること、歡喜信受は心に喜びが満ち溢れることを表わします。新年は歡喜の瞬間が多い年になるといいですね。



遊馬・柳島 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会)のご案内

日時 令和6年1月7日(日)
※10:00~12:00の時間内で
巡って頂きます。

参加費 100円 (※保険料として)

新年開運七草粥の会は、楽しくウォーキングを行いコース内七か所の寺社寺院を巡り御朱印を頂く会です。ゴールの西願寺で七草粥が振舞われ、参加者の方に記念品が手渡されます。お気軽にご参加ください。



厄払い節分会法要 (豆まき)のご案内

日時 令和6年2月3日(土)

10:00 受付
10:00 節分会法要
10:30 豆まき

令和6年度に前厄・本厄・後厄にあたる善男善女の方は是非お申込みください。

冥加料 5,000円 (祈禱料/会食)

※尚、豆まきのみのご参加は浄財として賽銭(灯明料)をお願い致します。



七草粥



「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ、春の七草」
春の七草をお粥にして1月7日に食べる風習は江戸時代に広まったそうです。七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を祓うと言われていました。そこで、無病息災を祈って七草粥を食べたのだとか…。

第14回 西願寺 お月見チャリティーコンサート 報告

去る10月27日に開催された西願寺「お月見チャリティーコンサート」。この日のコンサートでは、ジャズシンガーの下總佐代子さん歌と山本剛さんのピアノ、香川裕史さんのベース演奏でジャズを味わう心に沁みる会でした。



参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

掲 示 板

彩の都メモリアルパーク管理事務所 年末年始休業のお知らせ

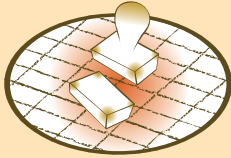
◆年末年始休業日◆

令和5年12月29日(金)～

令和6年1月3日(水)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問合せなどの業務はおこなえません。

尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にご参拝ください。



彩の都メモリアルパーク管理事務所
TEL.048-921-4194 FAX.048-921-4195

西願寺 令和6年 年間行事案内

- ◎毎月25日 18時～別時念佛会
- ※1月1日(月) 修正会 (新年をむかえての法要)
- ◎1月7日(日) 開運七草粥の会・七福神巡り
- ※1月25日(木) 法然上人御忌
- ◎2月3日(土) 節分会 (豆まき厄払い)
- ※2月15日(木) 涅槃会 (お釈迦さまの命日)
- ◎3月17日(日) 春の彼岸会
～23日(土)
- ※4月8日(月) 灌仏会 (花まつり)
- ◎5月25日(土) 大施餓鬼会
- ◎7月13日(土) お盆会
～15日(月)
- ◎8月4日(日) 合同新盆供養
- ◎8月13日(火) 旧盆会 (13日合同盂蘭盆法要)
～15日(木)
- ◎9月19日(木) 秋の彼岸会
～25日(水)
- ◎10月18日(金) 十三夜お月見コンサート
- ※11月23日(土) 十夜会 (念仏をとなくて善根をつむ法要)
- ※12月8日(日) 成道会(お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(水) 仏名会 (念仏をとなくて一年を反省する法要)



◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。
※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要です。

令和6年 年回表

百回忌	五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌
大正14年逝去	昭和50年逝去	昭和63年逝去	平成4年逝去	平成10年逝去	平成14年逝去	平成20年逝去	平成24年逝去	平成30年逝去	令和4年逝去	令和5年逝去



■お便り募集■
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部

東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二

FAX 03 (32655) 1302 Mail: info@io-comet

■次号予告

次号は令和六年二月発行予定の「春号」です。



◆編集後記◆

2023年も終わりに近づきました。気付けば令和になって五年も経っていたんですね。年末年始が近くこの時期は気持ちもソワソワと落ち着かない気がします。山積みになって今年中にとけかないといけない事や、準備しておかないといけない事などを考えていると頭はプチパニックで「今年を振り返る」余裕もなくなってしまう。しかし、そんな時こそ自分自身や身の回りの事をしっかり見つめ直すのは大切なかもしれません（と自分に言い聞かせ）。

さて、令和6年は法然上人が浄土宗を開いてから850年にあたる年です。滔々と流れる水のように続いてきた法然上人の説いた教えは様々な時代を経て今日の私たちまで届いているのだと考えると法然上人の思いや心の深さに触れられた気がします。年明け（令和6年）4月からは、総本山知恩院や大本山増上寺など浄土宗の各本山では慶讃法要が奉修されます。この良い機会に足を運んでお参りしてみるのはいかがでしょうか。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部